REF ID:A65485

第四號調書

モスコー・ハバロフスク間通信連絡施設大要

「附ソ聯邦ニ於ケル通信及放送事業」

昭和十二年十一月

Incl 11

Approved for Release by NSA on 04-25-2014 pursuant to E.O. 13526

REF ID:A65485

昭和十年五月ソ聯ガ北鐵讓渡ノ賠償トシテ本邦通信機器製造會社ニ對シ多量ノ通信用線路或ハ機器ヲ註文シ來レリ、其ノ註文ノ數量或ハ機器種類等ヨリ想像スルニ其ノ大部分ハ歐亞連絡卽チモスコー・ハバロフスク間通信連絡用施設ニ充當スベキモノト思ハル、依ツテ同區間ノ施設ヲ其ノ註文ノ內容ヨリ推察スレバ次ノ如キモノナラン。

一、線路構成

ソ聯ノ我ガ國通信機器製造會社ヘ對スル註文ノ內容ヨリモスコー・ハバロフスク間ノルートヲ推定スレバ第一圖ノ如シ、此ノ推定ハ種々ノ點ヨリ考察スレバ略々正確ナルモノニシテ、ソ聯ノ極東ニ對スル產業政策ト大ナル關聯ヲ有スルモノノ如シ。

即チモスコー・ハバロフスク間全長八、六八三。八粁ニ架空裸線搬送式電話ヲ施設シ、途中二〇〇粁乃至四〇〇粁毎ニ中繼所ヲ設ケ、中繼所數ハ端局ヲ含メテ三一ケ所ナリ、即チ裸線路ノ構成ハ第二圖ノ如クニシテ二九ケ所ノ中繼所ト二ケ所ノ端局トヨリ成リ、ソレ等ノ中繼所間隔並ニ三〇キロサイクル及六〇キロサイクルニ於ケル損失ハ圖ニ示ス如シ。

尚裸線ノ線種ハ大部分〇・〇耗硬銅線ニシテ架設線條數ハ二條ナリ

二、回線構成

CN型搬送裝置ノ二通話路ヲ電話回線ニ現用シ、殘リノ一通話路ハ豫備トシ現用セズ、尚將來ハ六通話路迄擴張スル豫定ナリ。

REF ID:A654485

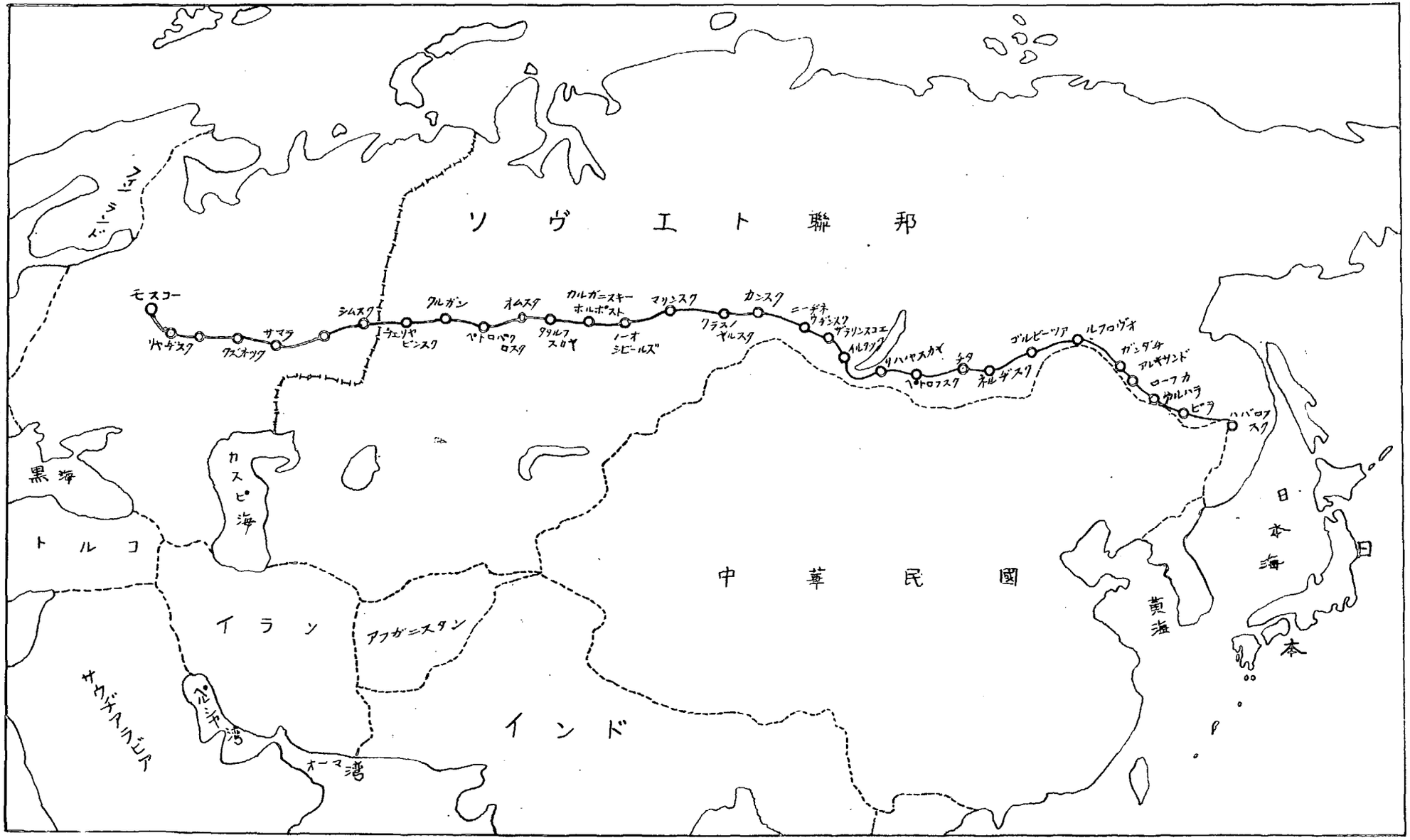
REF ID:A65485

音聲回線ハローカル回線或ハ印刷電信ニ充當ス。

中繼所ハ一ツ置キニ中間局トシテ夫々自動交換機ヲ設ケ二五名ノ加入者ヲ收容シ任意ノ局ノ加入者相互ヲ接續シ得ル如クス。

又中間局ニハ非常用トシ短波或ハ超短波送受信機ヲ設ケ其他手動交換機ヲ印刷電信機ヲモ備フ。

REF ID:A65485



第 1 圖

REF ID:A65485

Transmission Loss in each Repeater Section

1.8mm. Non-Loaded Cable use

(地名ハ昭和9年12月20日発行大日本帝國陸地測量部亜細亜大陸図ニヨル)

Loss per Km. in db

	30K~	50K~
Open Wire	0.085	0.134
1.8mm Cable	0.800	1.250

Km.		312		253		263		263		65	46	268		253		270		198		3.0
	A		B		C		D			E			F		G		H			I
	モスコー		リヤヂスク				クツネツク			サマラ					シムスク		チエリヤビンスク			クルガン
Loss in db 30K~		27.3		21.5		22.8		26.5				26.5		21.3		22.9		19.2		
Loss in db 60K~		41.8		33.9		35.9		43.4				41.7		33.9		36.2		30.3		

Km		22	253		275		276		335		296	4.3	2.2	383		393		2.6	4.4	246
	I			J		K		L		M			N		O		P			Q
				ペトロパウロスク		オムスク		タタルスカヤ		カルガニスキー・ホルボスト			ノーオシビールスク		マリンスク		クラスノヤルスク			カンスク
Loss in db 30K~			23.3		23.4		23.5		28.5			28.6		34.3		35.5			24.4	
Loss in db 60K~			36.7		36.9		37.0		44.9			45.1		54.1		56.0			38.5	

Km		334		256		245	6.4	5.5	199		217		292		277	47	33	277	0.4	36
	Q		R		S		T			U		V		W		X				Y
			ニーヂネウヂンスク		サラリンスコエ			イルクーツク		リハノフスカヤ		ペトロフスク		チタ		ネルチンスク				ゴルビーツア
Loss in db 30K~		28.4		21.7		26.1			21.3		18.4		24.8		26.5			29.6		
Loss in db 60K~		44.8		35.7		41.1			33.6		29.1		39.2		43.1			46.6		

km		360		374		243		253	32	47	3.8	3.3	163	2.7	51	2.0	99	321	13.4
	Y		Z		A′		B′				C′						D′		E′
			ルフロヴオ		ガンダチ		アレキサンドロフカ				アルハラ						ビラ		
Loss in db 30K~		30.6		31.8		20.6		31.3					33.0					38.0	
Loss in db 60K~		48.3		50.2		32.6		49.0					52.0					59.8	

—— Over 40 db

---- Over 50 db

13.2.1 M.7

REF ID:A65485

ソ聯邦に於ける通信及放送事業

REF ID:A65485

通信

郵便制度

放送を含むソ聯邦の一切の通信機關は通信人民委員部の管理のもとに置かれて居り、現在の制度を擴張すること及新通信方法を組織することがこの人民委員部の任務である。

これに關聯してソ聯邦は、計畫經濟の制度を通じて、特に惠まれた立場に居る。通信の諸機關は一個の統一された合成制度の中に結合される過程を進んでゐる。直接の相互通信はソ聯邦の首都と最も遠隔邊鄙な土地との間にも行はれて居る。

科學的調査研究所は現存設備の最高の利用法の研究と、一層新式な通信方法の案出に熱心な活動をつゞけてゐる。

郵便事業は、近年、從來極めておくれてゐた村落において、特に顯著な發展と改善を遂げた。取扱高、郵便局及其他の施設の數の增加は次の表のとほりである。

次表は百萬を單位とした郵便物を示す。

年度	信書無封書狀	爲替	小包	新聞雜誌
一九一三年	五六四・九	三四・六	九・八	三五六・一
一九二八年	六九七・四	三六・八	一三・六	一、三一九・五
一九二九年	七九八・四	三七・九	一七・二	一、八六六・八
一九三〇年	一、〇八五・七	三八・八	二五・〇	三、二〇七・四
一九三一年	一、三九六・六	三六・一	三〇・一	五、〇〇二・二
一九三二年	一、五〇五・〇	三七・七	三三・一	四、六九四・五
一九三三年	一、五五三・〇	三三・八	三五・〇	四、四四四・〇
一九三四年	一、四一六・〇	四五・〇	三一・一	五、一〇〇・〇
一九三六年	一、二二八・〇	五四・〇	二五・〇	五、五〇〇・〇

郵便事業に關する他の統計は次の如きものである。

年度	郵便局本局分局	正規取扱所	地方配達人
一九一三年	五、四八四	一	一
一九二八年	三、五三八	一一、五二五	二〇、五三四

REF ID:A65485

一九三一年	四、三九四	一九、七九八	一〇五、六〇五
一九三二年	五、二五七	三九、三五六	一〇三、一三一
一九三三年	五、三六〇	三八、九五九	一〇四、五四九

鐵道、道路、水路等による郵便物輸送網も著しく増加し且つ事業の内容が大いに改善された。この發達を示したものが次の表である。

	一九二八年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
郵便車（鐵道）	一、〇一〇	一、三四一	一、四八〇	一、四四〇
郵便自動車	四一三	九〇七	一、〇九二	一、六三三
汽船發動機船等	二二一	八〇	一五八	三〇六

飛行機により輸送される郵便物の瓲數は、過去二年間に約七倍に増加した。一九三二年には四百二十九瓲であつたが、一九三三年には一千七百十五瓲、一九三四年には、二千九百瓲に増加した。

電信・電話

電信および電話網の發展狀態は次の表のとおりである。

REF ID:A65485

年度	電信線（単位千粁）	電話線（単位千粁）
一九一三年	五〇二・六	材料なし
一九二八年	八九〇・一	二九〇・〇
一九二九年	九九五・〇	三二三・三
一九三〇年	一、〇七一・四	三七四・八
一九三一年	一、三二二・四	四一四・三
一九三二年	一、五一五・〇	四九二・六
一九三三年	一、六五二・六	五八〇・二
一九三四年	一、八七〇・二	六三六・〇

一九三六年八月に行はれた調査の結果によれば、モスクワに於ける電報取扱局設備の技術的能力は僅に四二・六％利用されてゐるにすぎずレニングラードは三二・四％、スヴエルドロフスクが二四・六％といふ數字を示してゐる。

各都市間の電報取扱數は一九三六年に七千三百萬通に上つたが、一九

REF ID:A65485

三七年には八千萬通を超過する見込である。

ソ聯邦の電話普及率は極めて低く、聯邦各共和國首都における人口百人當りの電話架設數は次の通りである。

モスクワ	三・六個
ピリツス	一・七個
エレヴアン	一・三個
アルマ・アタ	一・五個
タシケント	一・〇個
アシハバード	一・三個
キエフ	一・五個
バクー	一・六個
スターリナバード	一・八個
フルンゼ	一・三個
ミンスク	二・六個

REF ID:A65485

自働交換式は一九二九年に初めて實施されたが、その時以來局數が急增して、一九三四年に自働交換式電話の數は十六萬二千個に達した。電話加入者數は一九二八年以來二倍以上に殖え一九一三年の十八萬七千四百個に對して一九二八年の二十三萬五千個から一九三四年の五十四萬一千個に增加した。

電信、電話網の建設にも顯著な發達が行はれた。新電信幹線は、アルマ・アタ―セミパラチンスク―ノヴオシビルスク線、モスクワ―ハリコフ―シムフエロポ―リ―ムルマンスク線を含む。集合電話交換區は一九三三年に實施されたが、現在操作されてゐるのは次の交換網である。

レニングラード州	七六區
モスクワ州	一四六區
ウラル州	五四區
ウクライナ州	二八五區

REF ID:A65485

北部コウカサス州　八四區
ダゲスタン州　八區

高速度ベドー及びジーメンス機が今日モスクワーイルクーツク及びモスクワーハバロフスク（八千五百粁）のやうな長距離區間の通話に採用されてゐる。

ソ聯通信人民委員部は電話普及の目的のもとに、三七年度に於て合計十一萬個の新設電話を架設する計畫を立てた。農村に於ては三千五百の農村ソヴエートに電話を架設する外、約三千の現存地方電話交換局を改善する豫定である。なほ自動接續式電話の普及並に農村ソヴエート、機械トラクター配給所、國營農場、共營農場等の全面的電話化が當面の課題となつてゐる。

ソ聯各都市間の電信、電話連絡の現狀は未だ極めて不充分で、最小限度の需要すら滿してゐない狀態である。尙ほ、電信連絡を全く有せざる地區が百餘あり、亦都市間に電話連絡を有せざる地區が七百餘に上つてゐる。亦、大部分の電信局はクロブフエル式と云はれる舊式の器

REF ID:A65485

核（耳で聞いて受信するもの）を備へてゐる狀態であつて、これが改要は當面の急務である。

一九三七年に行はれる電信電話連絡の技術的改善中特に注目すべきものはモスクワーハバロフスク間の大幹線建設が完了することである。即ち、首都モスクワと極東間に電話連絡が確立される外、グルヂヤ、アゼルバイジヤン及びアルメニヤとの電話連絡が擴張せられる等である。亦、モスクワーカザクスタン間にも有線電話連絡が開始される樣定である。

ソヴ邦のやうに廣大な國では、無線電信及び電話の實施が何より重要である。最初の短波長無線通信が一九二七年にモスクワとタシユケント間に開始され、一九三二年にはあらゆる遠隔中心地が短波長無線局によつてモスクワと連絡された。次の諸中心地が今日無線電信によつて連絡されてゐる。（一）モスクワータシユケント。（二）モスクワーバクーアルマ。アタ。（三）モスクワーチフリス。（四）モスクワーバク

ー。（五）モスクワースフエルドロフスク、（六）モスクワーイルクーツク。（七）モスクワーハバロフスク。（八）モスクワーノヴオシビルスク。（九）イルクーツクーヤクーツグ。（十）レニングラードースウエルドロフスク。（十一）イルクーツクーハバロフスク。（十二）ハバロフスクーペトロパウロフスク。

無線電話は（一）モスクワータシユゲント、（二）モスクワーチフリス。（三）モスクワーアルマ。アタ、（四）モスクワーバクー、（五）モスクワーハリコフの間に行はれてゐる。

新烏眞電送線は一九三三年以來モスクワとスヴエルドロフスク間に、一九三四年以來モスクワータシユゲント間に實施されてゐたが、一九三七年度には廣汎に普及される見込である。即ち人民委員會議の決定によれば約二十本の電送寫眞連絡線が開かれる豫定で、其中主なるものをあげればモスクワーハバロフスク間、モスクワーウラヂオストック間、モスクワーアルマ。アタ間、モスクワーバクー間、モスクワー

REF ID:A65485

ロストフ間、モスクワーシムフエロポリ間などである。尚ほ-ヨスクワに於けるテレヴイジヨン中央局も三七年度に於て其の操作を開始する豫定である。

國際電信及び電話事業は、國際關係の發達に伴つて進捗した。ソ聯邦と直接通話を行つてゐるのは次の諸國である。（一）ダンチツヒ、（二）丁抹、（三）英國、（四）エストニヤ、（五）芬蘭（ヘルシンキ、ヴイボルグ）、（六）フランス、（七）獨逸、（八）和蘭（海牙、アムステルダム）、（九）ラトヴイヤ（リガ、リバウ、ドヴインスク）、（十）リトワニヤ、（十一）諾威、（十二）波蘭、（十三）瑞典、（十四）瑞西（ゼネバア）。

無線電信はモスクワ-次の各市間に行はれてゐる。アンカラ、ベルリン、倫敦、ニューヨーク、巴里、羅馬、上海、タシユケント-カブール、維納、

REF ID:A65485

電信及電話の事業の發展と共に投下資本を增加した。

年度	投下資本（單位千留）
一九二八年	五三、五〇〇
一九二九年	七〇、三〇〇
一九三〇年	一二三、〇〇〇
一九三一年	一八四、三〇〇
一九三二年	一八五、八〇〇
一九三三年	一八六、〇〇〇
一九三四年	三〇一、五〇〇

通信事業の總收支は次の通りである。（單位千留）

	收入	支出
一九二八―二九年	二〇二、五〇〇	一九三、八〇〇
一九二九―三〇年	三〇〇、五〇〇	二七二、九〇〇
一九三〇年（特別四半期）	一〇三、四〇〇	九九、八〇〇

REF ID:A65485

一九三一年　五六二、〇〇〇　五三一、〇〇〇

一九三二年　七八一、七〇〇　六九〇、三〇〇

ソ聯邦通信人民委員部の發表に係る一九三六年度事業々勢左の如し

指標	單位		
通信生産量（一九二六・二七年度價格）	百萬留	六〇一	
書信	百萬通	一、三四二・二	
定期刊行物	百萬部	五、五〇〇	
小包	百萬個	二六・七	
電報	百萬通	八六・〇	
國際及び長距離電話通話數	百萬通話	四五・三	
地方電話局の電話加入者通話數	〃	六八〇・〇	
長距離電信電話線總延長	千粁	二、二五三・〇	
其中　地方電話網	〃	七五三・〇	
電信機數	臺	一、二四九・四	

REF ID:A65485

都市電話局取附電話數	千番	八二〇・〇
電話連絡を有する區中心地		二、八九〇
村ソヴエート		四二、〇〇〇
ソフホーズ		四、七八〇
機械トラクター・ステーション		四、六〇〇
長距離無線電信電話機數		二七八
同上全能力	キロワット	一、四八五
郵便企業網		四六、一七〇
機械化郵便筒の比重（全延長に對する比率）	%	四四・八
基本從業員一人當り生産高	留	二、一八六
基本從業員數	千人	二七五、〇
基本從業員一人當り年平均勞賃	留	一、九七四・〇
通信人民委員部關係の基本建設	百萬留	四〇〇

REF ID:A65485

基本建設支出
（建設費低下を算定して）

百萬留

通信網				
指標	單位	一九三三年末	一九三四年末	
一、企業合計	一個	四三、六九六	四五、二〇四	三五六
內譯				
（イ）區支部、局、支局	〃	五、三〇五	五、七七九	
（ロ）分室	〃	三八、三九一	三九、四二四	
二、農村郵便配達人	〃	一〇五、〇六〇	一一三、八七六	
三、都市及區中心地の電話局	〃	二、五八三	二、五八三	
內譯				
（イ）自働式（ア・テ・エス）	〃	二二	二九	
（ロ）共電式（ツエ・ベ）	〃	二三六	二七三	

REF ID:A65485

（ハ）磁石（エム・ベ）式	〃	二、一九四	二、二八一
四、無線電信電話機	〃	二〇七	二三五
全能力	キロワット	一、〇三九・一	一、一六二・六
内譯			
（イ）長波	一個	四一	三〇
（ロ）短波	〃	一五八	二〇〇
（ハ）高周波	〃	二	二
（ニ）電弧式	〃	一	一
（ホ）火花式	〃	六	三
五、電信電話線延長	千粁	一、六三二・九	一、八五五・〇
（イ）長距離線	〃	一、一七二・四	一、二六〇・四
（ロ）銅線及合金線	〃	七五・二	八〇・〇

通信取扱高

REF ID:A65485

一、有料發信 指標	單位	一九三三年	一九三四年
(イ)定期刊行物	百萬	四四四三。九	四九七五。二
(ロ)長距離電話通信數	〃	二七。九	二六。五
(ハ)電報	〃	七一。〇	六五。二
(ニ)普通封書	〃	九七六。九	八四〇。四
(ホ)葉書	〃	一五九。一	一一九。六
(ヘ)料金不足	〃	一二七。九	一〇六。五
(ト)書留	〃	一四六。〇	一四四。二
(チ)帶封	〃	六五。四	五三。六
(リ)價格表記	〃	一。二	一。六
(ヌ)爲替	〃	三三。八	四七。〇
(ル)小包(普通及貴重品)	〃	三五。〇	二九。六
二、電話加入者 都市及區中心地	千	四六七。四	五三四。七
三、村落地方通信電話機數	〃	五八。七	七九。五

REF ID:A65485

ラヂオ

放送事業の組織

ソ聯邦の放送無線事業は之を三つの發達段階に分類することが出來る即ち

一、一九二四年放送開始より一九二八年迄の初期。

二、第一次五ヶ年計畫時代。

三、第二次五ヶ年計畫時代。

ソ聯邦最初の放送は一九二四年電力一キロワットのシヤボロフ放送局によつて開始せられた。當時はラヂオ放送技術も初歩的であり。放送プログラムも貧弱なものであつた。此の初期に於て放送はラヂオ放送會社の手で經營されてゐた。

第一次五ヶ年計畫時代に入ると國内工業の發展につれ放送事業も發展を遂げ。放送事業そのものの性質から之を會社經營より國家の統制下に置くこととなり。一九二八年當時の郵便電信人民委員會が全放送事

業の統制に當ることとなつた。之によつて地方局、中繼局、中繼線等が次々に建設を見、放送事業の基礎が確立された。

第二次五ヵ年計畫時代。一九三三年に至るやソ聯政府はラヂオ放送の再組織をなし、人民委員會議に直屬の聯邦ラヂオ委員會を組織し、以降此の機關がソ聯邦放送事業全般を統轄して今日に至つてゐる。

即ち現在放送組織の構成は次の如くである。

1、中央監督部＝放送局、中繼局の新設建設計畫、統制を行ふ、又ラヂオ商、工業の監督を掌る。

2、中央放送部＝全國中繼プログラムの編成、定期的出演者に關する事項を取扱ふ。

3、地方放送部＝ローカル放送、ラヂオ普及の業務監督、統制、援助を所管する。之等はソ聯諸都市にある地方委員會により行はれる。

ソ聯放送の目標と特性

ソ聯邦放送事業は、都市及び町村の文化的經濟的差異懸隔を可及的に廢除しやうといふ政府の意嚮、方針によつて、急速に發展を來した。ソ聯邦放送事業の特徴は、一にその自然的條件、即ち非常に廣汎な版圖を有すること、天候氣象等放送に影響する所が全國的に均等ならざること等によつて、各地の受信狀態を優良なものとする爲にはいきほひ大電力局による放送の方針を採らざるを得なかつたことである。今一つの特徴は、ソ聯邦が國家としての條件乃至は方策によるもので、ラヂオを以て國民指導機關たらしめること、共産主義的宣傳煽動の機關として利用し且つ之を對外的に國際的にも用ひやうとすること等の爲に特別の技術的考慮及び放送プログラム編成を爲しつゝあることである。その他、ソ聯邦は言語の異なる種々の民族が多數あることから、地方各局に於て、之に適應した處置を講ぜねばならないことも特徴として擧げられやう。

之等の目標乃至は特性の爲に、ソ聯邦では技術的に長波、中波、

REF ID:A65485

短波長各局の配置及び使用電力に意を用ひて居り。放送プログラムも之によつて種々編成に遺漏なきことを期してある。而して之が成果は最近發展著しき電磁學を利用し。再度の産業五ヶ年計畫によつて發達したラヂオ工業によつて充分にその目的を果しつゝある。

放送局の動態

ソ聯邦のラヂオの發展は一九二四年の第一回放送より年々增加し。放送網も擴大。充實しつゝある。今之が例證として左に放送局數と使用電力を年次にして示せば——

年度	放送局數	電力總計キロワット
一九二九年	四一	二一七。五
一九三〇年	五二	三八一。二
一九三一年	五三	三九五。〇
一九三二年	五七	九〇一。九
一九三三年	五七	一、五〇三。四

REF ID:A65485

一九三四年	六七	一、五五二・〇
一九三五年	八〇	一、六三七・八

最近のソ聯放送局について言ふと――

一九三四年に於て、ソ聯邦のラヂオ放送局數全部で六十七局あり、その電力量は總計一、五五二キロワットであつた。同年にはモスクワのノギンスク五百キロワットの大放送局完成し、之が材料機械は全部國產であると誇つてゐる。

一九三五年度に於ては局數は八十に増加し、總電力量も一、六三七・八キロワットとなつてゐる。即ち之を細別するに――

局電力	局數
五〇〇キロワット	一
一〇〇同	五
五〇同	一
四〇同	一
三五同	三

REF ID:A65485

二〇　同　四
一〇　同　二七
一〇　同　以下一キロワット　三八

其後も放送局は續々建設され、擴張されてゐるから、現在では放送局數が恐らく百局以上、電力も二千五百キロワットを越えるものと豫想せられてゐる。

最近、モスクワ郊外チヤディインスクに強力な大放送局を建設完成したといふ。今後共、ソ聯放送局は質的にも量的にも益々增加するであらう。

聽取料金制度

聽取料については、初期に於ては不徹底であつたが一九三三年一月一日正式に法令を以て公布されるやうになつた。

此の聽取料は二種に分れ、プログラムに對して支拂ふものと、聽取裝置について支拂ふものとがある。その金額は聽取者の所得によつて異

REF ID:A65485

るが、一例を示せば年額次の如きものである。

プログラムに對し　二四留

聽取裝置に對し　鑛石セット　三留

眞空管セット一八ー三六留

この聽取料金の徴收事務は郵便通信人民委員部によつてなされる。

尚一九三五年四月の聽取人員は約二千三百二十三萬人である。

放送聽取の方法

放送聽取の方法には四種あり、即ち次の如きものである。

1、自己所有の受信セットによる聽取。

2、中央受信機の聽取會に加盟し聽取する。此の方法は一ヶ所に強力な受信機を裝備して、之により放送電波をキヤツチし、それを有線によつて各家庭或ひは室に送り込んでスピーカーを鳴らす方法である。此の方法では中央受信機は各局の放送を分離聽取自由であるが聽取者にプログラム撰擇の自由がない不便がある。

REF ID:A65485

3、受信局を介して聽取するもの

受信局は各局の放送電波をキャッチすること前項の中央受信機と同様であるが、その特異な點は中央受信機が有線によつて聽取者に送電をなすに反し、受信局は三十ワット前後の放送機を有してゐて、無線によつて加入者に送電するもので、一種の小規模な中繼放送局の如きものである。受信局は大放送局のプログラムを斯く中繼する外に、自己獨特の小放送もなし得る。その割合は國家經營のプログラムを七十五%中繼し、工場、勞働團體等のものを二十五%放送してゐる。此の方法は主として大企業地帶或ひは大工場等に於て採用されてゐるものである。

4、集團聽取による方法。主として農村、地方地帶に行はれ、強力な増幅器と大スピーカーによつて多數の人々に聽取せしめるもので、各都市の公園、街頭等にも設けられてゐる。

放送プログラム

REF ID:A65485

放送番組は凡て國家機關の監督下に爲されるのであるが、之が編成は全國ラヂオ委員會中の中央放送部の一部門に屬し、その職員によつて行はれるが職員の大多數は作者、作曲家、マイクロフオン演奏者等である。

ソ聯邦ラヂオの目標は前にも述べたやうに共産主義的宣傳、經濟的文化的啓蒙、娯樂、慰安として行はれてゐる。

從つて之は如實にプログラムにも反映されてゐる。即ち之を類別して列擧すれば——

1、實生活放送（主として實況放送）
2、ニユース
3、ラヂオ体操
4、農民の時間
5、子供の時間
6、赤軍の時間
7、婦人の時間
8、ラヂオ大學
9、外國語講座
10、勞働組合關係その他の放送

REF ID:A65485

11、オペラ、音樂會、中繼録音放送等。
12、マルクス・レーニン主義政治講義。
13、産業講座（播種、收獲、農業機械、土木、家畜、天文、地文、科學等々）
14、文學講座（毎月百五十種位が放送され、内外作家の作品を紹介する。）
15、衛生、保健講座
16、ドラマ（劇場よりの演劇、歌劇等の中繼或ひはラヂオドラマ）
17、音樂（器樂、聲樂は勿論、ジャズも多い。又各地方民族の歌謡俚謡も多い。）
18、その他の娯樂放送

第二次五ヶ年計畫時代以前には思想的文化的教養宣傳及びニュース等の種目が多かつたが、最近では娯樂的種目が多くなり、ジャズなどが目立つて來た。一九三四年度の年統計によると、種目の割合は次の如

REF ID:A65485

くである。

藝術	五九・九％
教育	六・四％
ニュース、評論	六・六％
社會宣傳	九・九％
その他	一七・二％

藝術項目が半ば以上を占めてゐるが之を更に、音樂と言語によるものとに分類するとその割合は次の如くである。

音樂	五六・三％
言語	四三・七％
純言語	二七・四％
音樂と言語	一六・三％

中央局と地方局

モスクワ、レニングラード、ハリコフ、キエフ、オデッサ等各地方の中心都市には各々中央放送局がある。之等の局よりの放送は各地方の

REF ID:A65485

ラヂオ交換局で中繼されるが、此の交換局は自體その地方の特有の放送をなし得る。併し乍らこのローカル放送は時間が最大限度一日に二時間以内に限定され、又前以つて各聯邦或ひは地方の放送委員會の許可を受けねばならない規定になつてゐる。

地方局が番組として放送する許可を受けてゐるのは左の事項である。

1、政治ニュース、地方新聞の評論
2、物語　3、講演及び講座
4、集會、會合の放送　5、報道及び告知
6、アマテユア團體による演奏

また、地方局は義務として大約次の如き規定を課せられてゐる。

一、モスクワの放送を直取可能の地方局交換局は、時報、ラヂオ體操を中繼すること

二、ロシヤ人居住地方ではモスクワよりの政治ニュースを中繼すること

REF ID:A65485

三、中央放送局よりの兒童及びコルホズ農民への放送は之を再放送すること。等々。

プログラムの發表

月々のプログラム發表には次の如き方法をとる。

放送プラン――中央放送本部はラヂオ交換をなす支局或ひは地方局に對し。特別放送によつて放送前月の二十日頃に。上半月の中央放送團體の事業と一般プログラムのプランについて必要な告示をなす。下半月のプラン。告示は毎月五日頃。同樣に特別放送によつて連絡をとる。

毎週の放送プラン――中央放送團體はラヂオ交換局に對し。一週間分のプログラムの詳細事項を。その前週の休日（一週六日としての休日）の前夜に。通告する。

毎日のプログラム發表――日々のプログラムは。その前夜通知をすることとなつてゐる。

REF ID:A65485

毎日のプログラムの時刻は大體午前は六時半より、午後十二時、時によれば夜中の一時二時頃まで放送することもあるが、之は、聯邦の生活は天候や緯度の關係から夜を利用することが多い結果である。午前中は二回のラヂオ体操より始まる。次いでレコード放送數回、更に子供の時間、ニュース等である。夜になつて六時以後が最もラヂオ放送の活潑な時間である。六時から七時半までは大體、各種講座、レコード及び會議の模様、動物園見學等々の實況放送等、七時半以後は娯樂的な音樂やコンサート中繼、劇場中繼等の種目が大部分である。その間にニュースや政府よりの告示や發表等がなされてゐる。

ラヂオと民衆

ソ聯邦のラヂオ。プログラムの中殊にローカル放送のプログラムで目立つのはアマチユアの演技である。モスクワの如き都會に於ては各等勞働團體や工場等からオーケストラや合唱團、獨演者等を養成し、勞働に之以へのない時間に放送をなさしめてある。最近では各民族共和國

の民族調子かなローカル放送を中繼によつて全國的に放送してゐるのが目立つてゐる。シベリヤにおいて、南露の横笛の妙音に接すると言つた調子である。

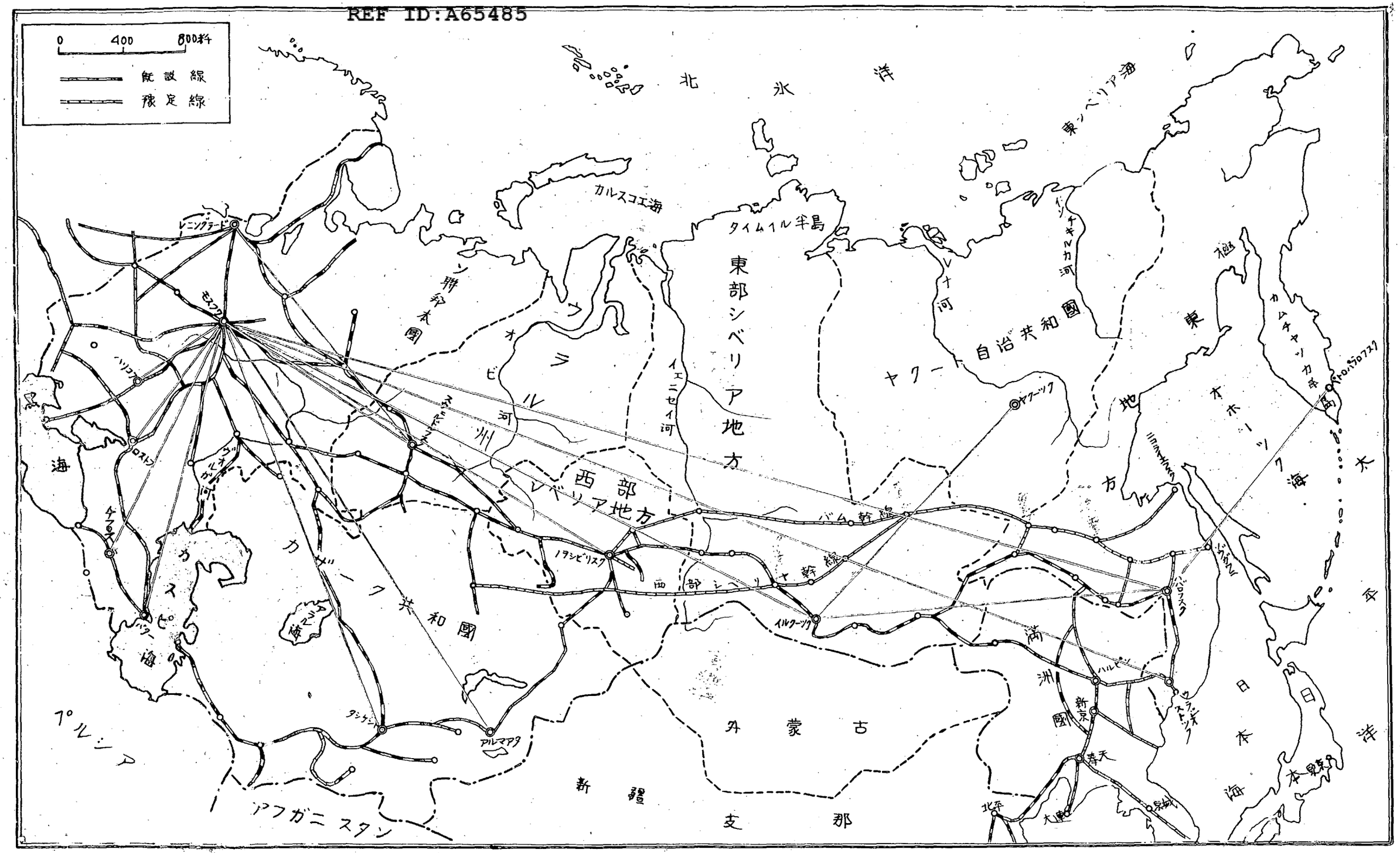
ローカル放送はその地方獨特の問題を取りあげ、例へば炭坑地方では炭坑に關係のある特別放送をなし、スタハノフ運動の普及により勞働能率の向上に役立たしめてゐる等である。

ソ聯邦放送事業は營利的な施設としてゞはなく、國家的施設として存在してゐるがため、上述の如く民衆との結合が頗る密接であるが、此の結果は臨時諸施設にも現はれてゐる。即ち赤軍のため兵舎に受信機を備へるとか、急行列車中の客車内にスピーカーを設置するとか、勞働街に大型刀喇叭を設けて、各住宅に電波を送りなどしてゐる。また、夜間勞働者の爲には最夜中の放送時間を設けて之を慰安するといふやうな方法もとつてゐる。

かくして、ソ聯はラヂオ放送による社會主義文化の普及に最大の努力

REF ID:A65485

を拂つてゐるが、その後一九三六年中には更に各地に中繼放送局を三十八局新設のプランを立てた。之にともなひ聽取施設も急激に發展する見込で、統制下にあるラヂオ網二萬二千三百ケ所を一躍五萬五千八百五十ケ所に達せしめやうとのプランを發表してゐる。しかし、その後の實績は不明である。

尙ソ聯放送に使用する用語は大體ロシヤ語であるが、その他英語、獨逸語、フランス語、全國六十二種の異つた民族語が使用されてゐることを附記しておく

REF ID:A65485